



下呂市農業委員会だより

平成27年9月1日発行

vol.7

下呂市農業委員会

下呂市萩原町萩原 1856 TEL.0576-52-2000 <http://www.city.gero.lg.jp/> ⇒ 市政情報 ⇒ 下呂市農業委員会

婚活
イベント

農家に恋



開催日

11月1日

日曜日

9:20 ~ 16:15

(雨天決行)

集合場所 JR下呂駅前 9:20 (受付後、会場までバス移動)

開催場所 飛騨小坂ふれあいの森 (小坂町湯屋)

開催内容 自己紹介タイム、バウムクーヘンづくり体験、バーベキュー、カップリングタイム (16:15 下呂駅前解散)

参加料 男性 3,000 円・女性 2,000 円

募集人数 女性 15 名

男性は市内の農業後継者 15 名が参加予定

募集期間 9月1日～10月15日

応募方法 次のいずれかの方法でご応募ください。

- 下呂市 HP の「参加応募フォーム」にご入力
- 「コンサポぎふ」HP より、「農家に恋」へ参加入力
- 下呂市農業委員会事務局までご連絡いただき、応募用紙をご請求
- お近くの市農業委員へご連絡

* 募集人数を超えた場合は抽選となりますのでご了承ください

市農業委員会主催で「婚活イベント」を開催

11月1日《農家に恋》・9月より女性参加者募集開始

わたしたち下呂市農業委員会では、このたび初めての試みとして、農業後継者を対象とした、「婚活イベント」を開催することとなりました(共催 下呂市、JAひだ)。これは今年2月から、農業後継者対策の一環としてその開催を検討し、委員会内に「農業後継者花嫁・花婿対策委員会」を設け、隣県や県内の先進地視察なども実施して協議を重ねてきたものです。

開催する婚活イベントの概要は左の通りです。なおこのイベントは、下呂農林事務所・

JAひだ・下呂市で構成する「JAひだ益田地域農業振興会議」からの助成を受け実施します

各地域の農業委員による個別の勧誘の結果、すでに市内の15名の男性農業後継者が参加予定となっています。9月1日より女性参加者15名の募集を開始いたします。農業に興味があり、結婚を真剣に考える女性の方、ご参加をお待ちしています。

3K(きつい・汚い・かつこ悪い)と呼ばれていた時代から、近年は新3K(かつこ・汚い・きつい)と呼ばれています。

こよく・感動があり・稼げる)へと農業は進化しており、「農ガール」という言葉が生まれるなど、農業に対するイメージは日々変化しています。下呂市においても毎年2〜3名の農業者が就農し農業経営を開始しています。

そうした中、農業経営の発展・安定には、後継者に加えそのパートナーの確保も大切であることから、地域農業の代表者である農業委員が婚活イベントを開催し、農業後継者の結婚対策に取り組むものです。

「全国農業担い手サミット」来年秋岐阜県で開催

平成28年秋、岐阜県を会場に「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」が開催されます。これは、全国の意欲ある農業の担い手が一堂に会し、相互研鑽と交流を通じて、農業経営の現状や課題についての認識を深め、自らの経営改善と地域農業・農村の発展に資することを目的に、第19回全国農業担い手サミットinぎふ実行委員会と全国農業会議所が主催するものです。農業の担い手が主役の大会です。

開催日は未定ですが、10月または11月の二日間に開かれ、1日目には岐阜県で全国優良経営体表彰やサミット宣言などを行う全体会が行われます。さらに二日間わたって県内各地を会場に地域交流会が実施されます。

下呂市もこの地域交流会の会場となり、情報交換会と現地研修会を開催。全国各地の農業の担い手が交流を図り、岐阜県や下呂市の風土・文化、農業経営の現状などを全国の農業者へPRします。下呂市でも岐阜県下呂農林事務所が事務局となつて下呂地域実行



シンボルマーク
「いきいきファーマー」

委員会を立ち上げ、当委員会からは会長が副委員長として参画しています。大会の成功に向け、おもてなしの心で、担い手のつながりが広がるよう現地研修会のコース内容などについて協議を進めています。

全国農業担い手サミットは、平成10年に山形県酒田市を会場に「認定農業者サミット」として開催が始まりました。平成18年（第9回）より現在の名称に変更され、平成20年の第11回からは皇太子殿下がご臨席されています。昨年は兵庫県の開催県となり神戸市などで開催され、2457人が参加しました。今年は11月10日、11日の日程で宮崎県を会場に開催されます。

農業委員の研修活動

6月25日、下呂交流会館マルチスタジオにおいて、「農地中間管理機構について」と題した研修会を実施しました。（一社）岐阜県農畜産公社の職員の方や同公社飛騨地域担当の専門員の方、岐阜県下呂農林事務所の担当職員の方を招き、それぞれから説明を受けました。左写真。

22名の委員が参加し、地元の実情に即した質問などをして農地中間管理事業についての理解を深めました。

また7月21日には、下呂交流会館泉ホールで岐阜県農業会議主催の「地域別農業委員研修会」が開催され、飛騨・東濃の農業委員及び関係者等158人が参加しました。左写真。

当委員会からは9名の委員が参加し、農業委員会組織・制度改革について説明を受け、加茂郡白川町農業委員会の活動事例などを学んだほか、「6次産業化で地域創生を」と題した講演を聴講しました。

中間機構 地理農管

公的機関が中間受け皿となつて、耕作困難となつた農地を借受け、まとまりのある形で農業担い手に貸し付ける事業を行っています。

農地の貸付先が見つからずお困りの際はご一報を！

●農地中間管理機構：（一社）岐阜県農畜産公社 Tel 058-1215-6434
●下呂市内の相談窓口：下呂市役所 農務課 Tel 0576-152-2000



まめなかなか！農家訪問

3年目、自分なりの工夫で育てたトマトを

小坂町大垣内 トマト農家 古瀬英幸さん（27歳）

量が取れたら取れた分うれしーとトマト農家の魅力を語る英幸さん。小坂町大垣にある約30アールのほ場で、夏秋トマトを育てています。

平成12年、Iターンで家族4人が大阪から当時の小坂町へ移住し、父・英一さんがトマト農家としてスタート。当時英幸さんは小学生。学生時代は「たまにしか手伝わなかった」という農業でしたが、2年前の春に英一さんがからだを壊して入院したのを機に、一念発起して携わるようになりました。



▲英幸さん＝右手前＝をはじめ家族での選果作業中に邪魔しました。父・英一さん＝左、母・幸江さん＝右、この日は大阪からお姉さんやその友人＝中央奥＝もお手伝い。

（日下部俊雄委員取材）
英一さんから「トマトおもしろい？」と聞かれ、「やってみたら面白かった」と答えた英幸さん。今後の展望を伺うと、「育て方を勉強しながら、将来はほ場を広げて人も使っていけるようにしたい」と夢を語ってくれました。

「1年目、2年目はとにかく慣れることで精いっぱい。3年目の今年は自分なりの工夫を試しています」。現在では事業主として、イノシシなどの獣害に悩まされながらも、広く情報収集をしたり英一さんと相談したりしながら栽培に取り組んでいます。「力仕事とかしんどいことを率先してやってくれるので助かります」と、お父さんも目を細めていました。

市農政の動き

下呂市の「獣害対策事業」が変わりました
〜個から集団へ・脅しから阻止へ〜

下呂市では、有害鳥獣による農作物被害を阻止するための侵入防止柵購入費に対し補助金を交付する事業について、平成27年度より内容を一部見直しました。左表。

まとまった対策がより有利に

個人分の農地や農地部分を守るだけでは野生動物の集落進入は防ぎきれません。地域ぐるみで取り

平成27年度からの補助の内容

対象者	対象経費	補助率	補助限度額
農業者 (個人)	電気柵購入費	1/3 以内	50,000 円
	物理的侵入防止柵購入費	1/2 以内	100,000 円
団体 (2戸以上)	電気柵購入費	1/2 以内	500,000 円
	物理的侵入防止柵購入費	2/3 以内	500,000 円
集 落	電気柵購入費	3/4 以内	500,000 円
	物理的侵入防止柵購入費	3/4 以内	1,000,000 円

組みできるよう、「集落」を補助対象者に加えました。

心理柵から物理的侵入防止柵へ

年間通じて餌を求め侵入する野生動物に対しては、常設で効果の得られる、物理的な侵入防止柵を設置し対応するのが効果的です。比較して効果の高い取り組みに対して、より補助できるよう区分を設けました。

電気柵は一度電気ショックを受けた動物を、「近寄りたくない」と思わせて食い止める「心理柵」ですが、下草や積雪などにより効果が得られないことがあります。

獣害用電気柵を設置されている方・これから設置される方へ

7月他県において電気柵による人身事故が発生しました。このような事故が二度と起きないよう、今一度ご自分の農地を守っている電気柵が、人に危害を及ぼす危険な設備になっていないか、設置を周囲に知らせる警告看板等が設置されているかどうか、ご確認ください。

農地パトロール実施中



期間中、緑色の腕章をつけた調査員が現地確認を行っています。また車両には「農地パトロール実施中」の黄色い標識を掲示しています。

9月から10月にかけて、農業委員会では耕作放棄地や無断転用を解消するため農地パトロールを実施しています。

耕作を放棄した農地は病害虫の発生や交通事故の原因にもなり、近隣の農地や周辺住民に大変な迷惑がかかってしまいます。

農地をお持ちの方は、よりよい耕作・生活環境を保つために農地を管理しましょう。

農業者年金で未来の自分へ安心を積み立てませんか？少子高齢化に強い積立方式・確定拠出型年金です。



- ① 年間60日以上農業従事
- ② 国民年金第1号被保険者
- ③ 60歳未満

以上を満たせばどなたでも加入できます。
農地権利等の条件はありません！

楽農楽食

お子さまでもおいしく
たっぷり野菜を！

● 涼風ジュレ ～夏野菜で～



● 材料 (5～6人分)

水 400cc
だし 10g
アガー 7～8g
酒 大さじ1
しょう油 小さじ1
塩 少々
オクラ、
プチトマト、
ハム、
キュウリ、
長いも
それぞれ好みの量で

● 作り方

1. 湯むきしたプチトマトは、半分～4等分にカットする。オクラはさつと湯がいて輪切りにする。
 2. ハム、キュウリ、長いもは食べやすいサイズにカットする。
 3. 鍋にだしの素とアガーを入れてよく混ぜる。水を少しずつ入れてよく溶かしてからひと煮立ちさせ、酒、しょう油、塩で味付けする。
 4. 涼しげな器に入れ、少し冷めたら具材を入れてかき混ぜ、冷蔵庫で冷やす。
 5. 完全に冷え固まったら出来上がり。
 6. お好みでワサビや三つ葉などを添えて。
- *アガーは寒天などと同じ、海藻を原料にした凝固剤。常温で固まり、お弁当などにも使えます。

〈編集後記〉

農地パトロールの現地確認時、「お金は要らんで、この畑貰ってもらえんかな」と、少しビックリするような相談を受けるようになりました。しかしその農地は、しっかり除草され管理されているのです。裏を返せば、『何とか農地を維持、守らねば』との強い思いからの発言と思われる。

農地維持の課題は、担い手不足、耕作者の高齢化と増加一方の鳥獣被害等ではと考えています。『農業委員会だより』が、下呂市の農地を守る情報、一助になればと思っています。(高木)

● 編集委員

・松嶋 光秋 ・高木 康則 ・林 忠和
・日下部俊雄 ・二村 明

全国農業新聞

農家の経営と暮らしに役立つ週刊の農業総合専門誌です。
農業の時事問題解説に力を入れ、事例が豊富です！

農業者の視点で
お届けします

週刊
《金曜日発行》

月 600円
年 7,200円

(年間購読割引あり)お申込みは農業委員会まで